

■日時 令和元年8月14日(水) ■天候 晴れ

天理高校 対 青森県立北斗高校

■球場 明治神宮野球場 第1試合 2回戦

■試合時間 1時間18分 ■備考 5回コールド

■審判 球審:山田 塁審:大和 鈴木 小松

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
北斗	北東北・青森	0	0	0	0	0									0	2	7
天理	東近畿1・奈良	12	0	9	5	×									26	16	0

北斗		ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	中	投	中	佐々木 快斗	2	0	0	0	右飛		投飛										
2	遊			阿部 夏宇	2	0	0	0	一邪			左飛									
3	右			栗山 草平	2	0	1	0	左2			一邪									
4	捕			芳賀 麗児	2	0	0	0	中飛			投ゴ									
5	投	左	投	赤坂 友翼	2	0	0	0		三振			三ゴ								
6	一			千葉 真之介	1	0	0	0		二ゴ											
6	打			高木 麻央	1	0	0	0					三振								
7	左	投	中	左	川村 光芽	1	0	0	0		三ゴ										
7	打			田邊 有汰	1	0	1	0					左2								
8	三			木村 宇輝	1	0	0	0			三振										
9	二			山田 勇希	1	0	0	0			二ゴ										
合計					16	0	2	0	残塁:1 併殺:0												
備考																					

■バッテリー

投手
赤坂 友翼
川村 光芽
佐々木 快斗
赤坂 友翼

捕手
芳賀 麗児

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
赤坂 友翼	1	17	7	1	6	6
川村 光芽	1	4	1	1	0	0
佐々木 快斗	1	12	5	0	2	1
赤坂 友翼	1	8	3	0	1	3

天理		ポジション		氏名	打	得	安	点	1	1	2	3	3	4	5	6	7	8	9				
1	遊			片山 幸輔	5	3	2	4	三振	中安	二ゴ	中3		一失									
2	三			清水 勇人	5	2	3	2	遊ゴ	三失	中3	中安		中2									
3	二			片山 優馬	2	3	0	0	死球	四球	三振	二ゴ											
3	打	二		森脇 達紀	1	0	0	0						二ゴ									
4	中			窪田 正喜	4	3	2	2	中安	四球		中3	投ゴ	遊ゴ									
5	左			野口 翔大	3	4	2	2	四球	遊安		四球	中本	遊ゴ									
6	一			紺谷 雄大	3	2	1	2	遊安	死球		二失	二飛										
7	右			片山 陽平	2	2	2	3	四球	左安		投安											
7	右			堀田 良之	1	1	1	0						右3									
8	捕			木下 慶充	3	2	1	2	遊安	投直		遊失											
8	打			有木 直也	0	1	0	0						四球									
8	捕			佃 隆人	0	0	0	0															
9	投			堀部 陸	2	2	1	1	右安		中飛	死球											
9	打			岡 直人	1	1	1	2						左3									
9	投			沖 勇輝	0	0	0	0															
合計					32	26	16	20	残塁:3 併殺:0														
備考																							

■バッテリー

投手
堀部 陸
沖 勇輝

捕手
木下 慶充
佃 隆人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
堀部 陸	4	13	1	2	0	0
沖 勇輝	1	3	1	1	0	0

■戦評

2回戦神宮球場の試合は、初戦となる東近畿代表・天理高校と1回戦の接戦を制して勝ち上がった北東北代表・青森県立北斗高校との対戦となった。初回表、北斗の3番栗山は左翼線二塁打を打ち好機を迎えるも後続を断たれて試合の主導権を奪うことができなかった。一方の天理はその裏、2死後に怒濤の攻撃を展開する。3番片山優の死球を足がかりに敵失を誘い4番窪田の中翼前安打によって1点を奪うと、6番紺谷のバント安打で2点目、さらにその後は3連続安打や敵投手の乱れによってこの回だけで12点の得点を奪う。天理はさらに3回、北斗の3番手投手の佐々木を捉える。4番窪田の右中間三塁打は北斗の守備の乱れを誘い、一気に本塁を陥れ、その後も1番片山幸の右中間三塁打、5番野口の右中間ランニング本塁打などによってこの回9点を奪う。さらに4回にも7番片山陽の右中間三塁打、9番代打の左翼手越三塁打などにより5点を追加し試合を決定づける。一方の北斗は、天理の主戦堀部に2回以降抑え込まれて出塁することができなかったものの、5回表、天理の2番手投手の沖から代打田邊が左翼手越打球を放つも天理の好返球に三塁タッチアウトとなり、26-0で天理の勝利となった。北斗は連戦の疲れによる守備の乱れによる失点に悔やまれる内容となった。